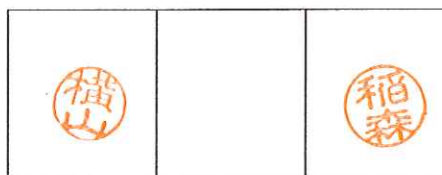


TSサポート・軽量TSサポート用先行手摺
取扱説明書

2011年4月
日鐵住金建材株式会社



目 次

I. 使用上の注意	_____	1
II. 各部材の品番と名称	_____	2
III. 組立手順	_____	3 ~ 6
IV. 解体手順	_____	7 ~ 9
V. スパン長 600 (610) mm の場合の組立・解体手順	_____	10

※ 本製品使用の際は取扱説明書を熟読し、正しく使用すること。

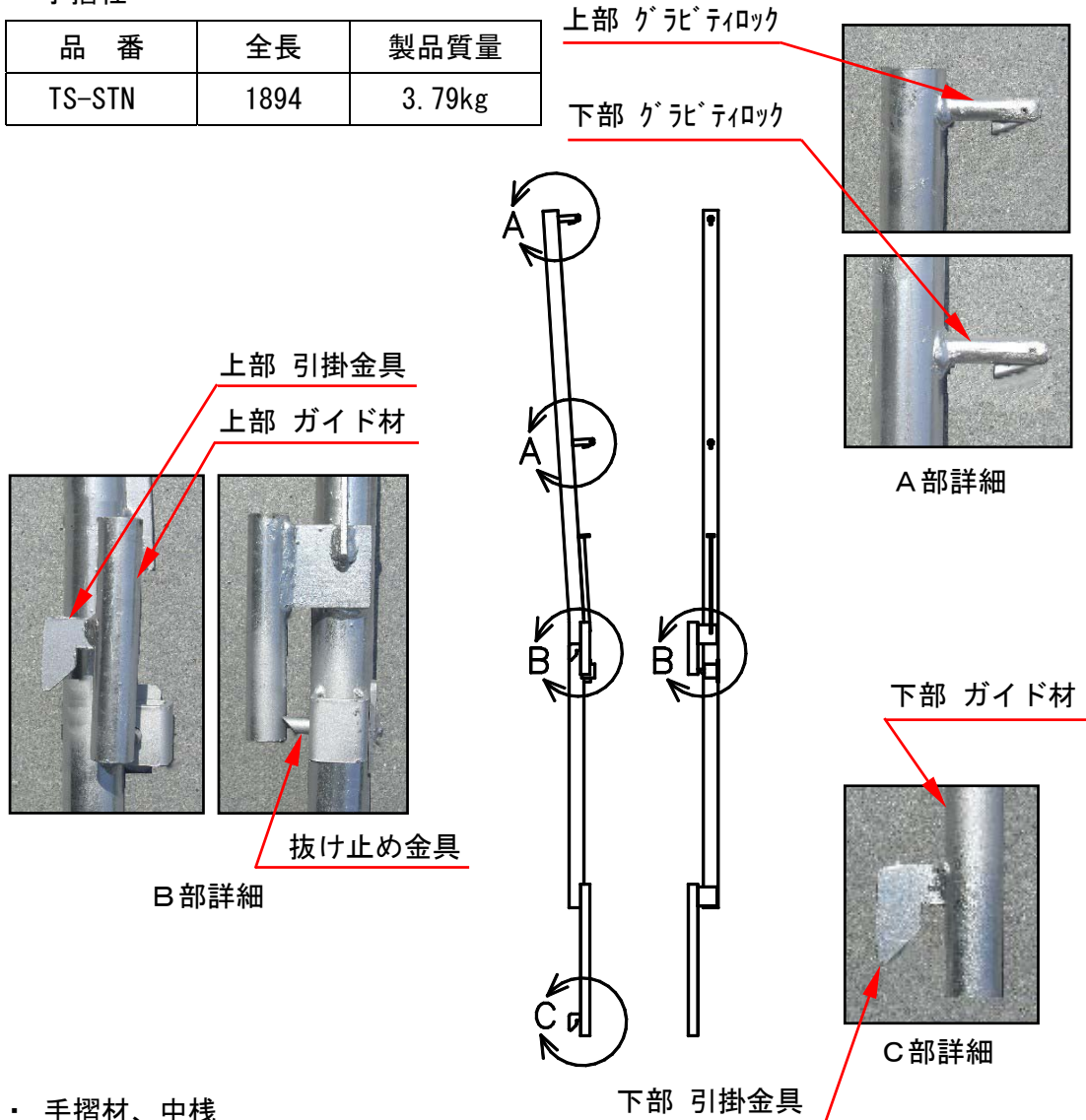
I. 使用上の注意

1. 作業者には、あらかじめ安全な使用についての教育を行うこと。
2. 先行手摺を親綱支柱、控え、壁つなぎ、足場板等の支持点としないこと。
3. 先行手摺を資材等の荷上げの吊り元としないこと。
4. 先行手摺には材料等を立てかけないこと。
5. 先行手摺には乗らないこと。
6. 先行手摺の各部は、著しい損傷、変形または腐食のないものとする。こと。
(1) 手摺柱付属の抜け止め機能（グラビティロック）が確実に作動するか確認すること。
7. 安全帯取付設備として使用する場合は以下とすること。
(1) 先行手摺1スパンにつき、1人の使用とすること。
(2) 安全帯のランヤードのフックは、先行手摺の手摺材にかけること（中棧へはかけないこと）。
(3) 安全帯載荷荷重は100kg以下とすること（工具等含む）。
8. 組立・解体時は下層の安全（人がいないか）を確認して行うこと。
9. 部材を投げないこと。

II. 各部材の品番と名称

・ 手摺柱

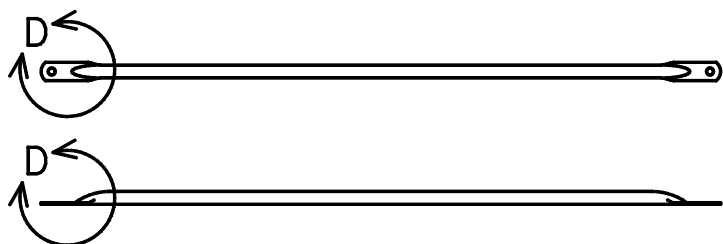
品番	全長	製品質量
TS-STN	1894	3.79kg



・ 手摺材、中棧

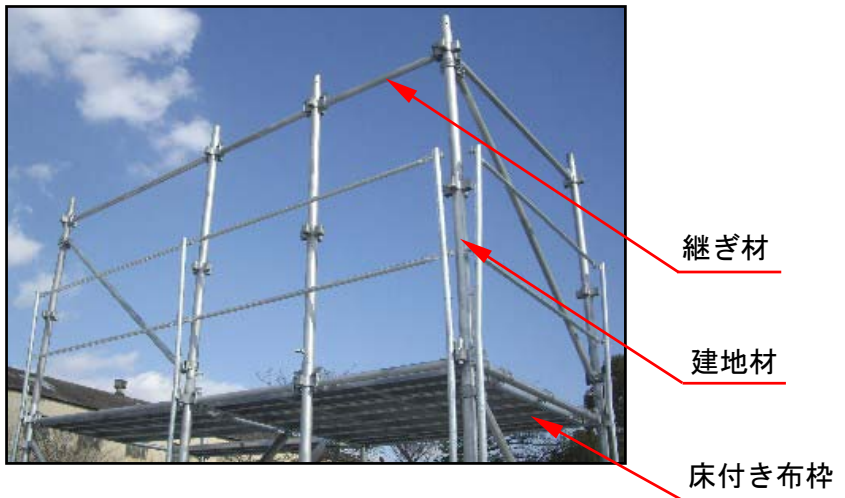
品番	スパン	製品質量
TS-STN18	1800	1.86kg
TS-STN15	1500	1.56kg
TS-STN12	1200	1.26kg
TS-STN09	900	0.95kg
TS-STN06	600	0.65kg

品番	スパン	製品質量
TS-STN6	1829	1.89kg
TS-STN5	1524	1.58kg
TS-STN4	1219	1.28kg
TS-STN3	914	0.97kg
TS-STN2	610	0.66kg

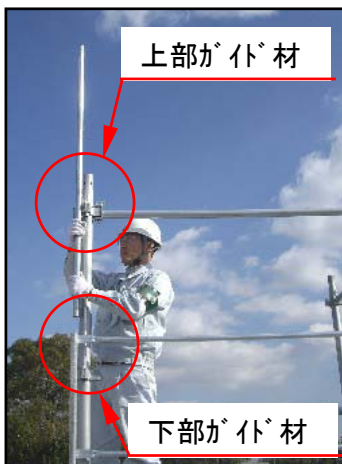


Ⅲ. 組立手順

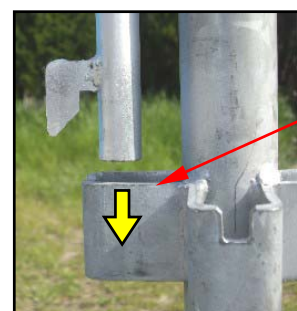
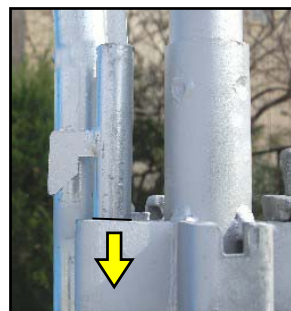
1. TSサポートまたは、軽量TSサポートの組み立て



2. 手摺柱（1本目）の設置

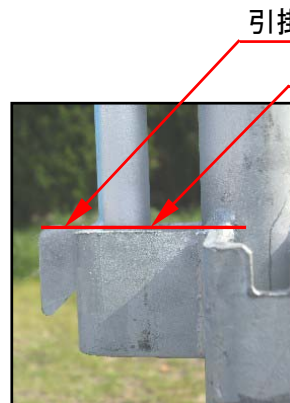


① 手摺柱の上部ガイド材、下部ガイド材を建地材の外側のポケット金具に同時に差し込む。



外側の
ポケット金具

② 引掛金具上端とポケット金具上端が、同レベルになれば設置完了。



※ 注意 1

手摺柱設置後、引掛金具上端とポケット金具上端が同レベルであるか確認すること。

※ 注意 2

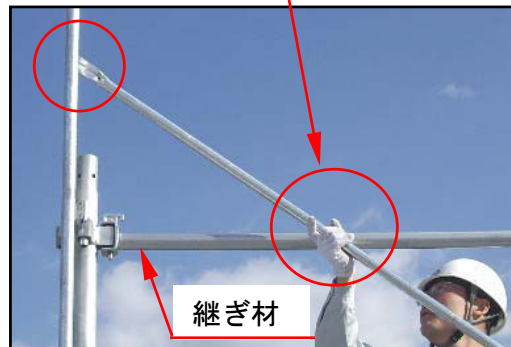
抜け止め機構が確実に作動しているか確認すること。

3. 中棧・手摺材の設置

① 下部グラビティロックに中棧の片側を設置。



継ぎ材の外側から設置



② 上部グラビティロックに手摺材の片側を設置。



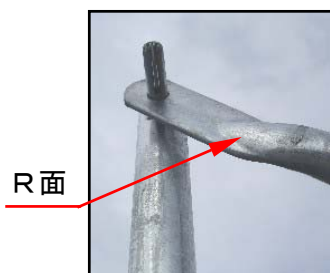
継ぎ材の外側から設置

※ 注意 3

手摺端部のR面が手前側を向くように中棧・手摺材を設置すること。

※ 注意 4

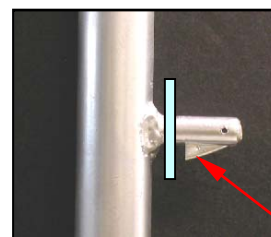
グラビティロック先端の抜け止め機構が確実に作動しているか確認すること。



正しい設置例



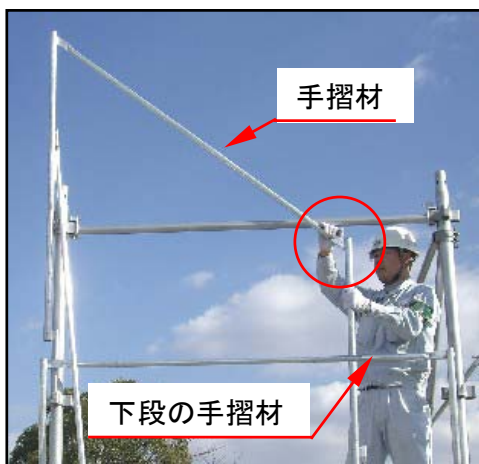
間違った設置例



爪部

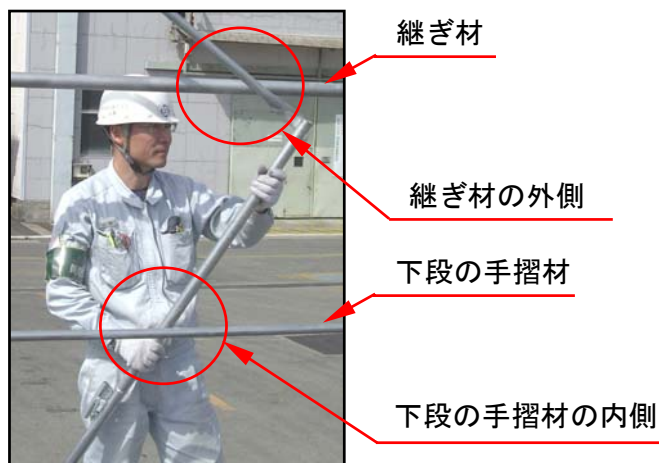
4. 手摺柱（2本目）に手摺材および、中棧をセット

① 手摺柱（2本目）の上部グラビティロックに手摺材をセットする。



※ 注意 5

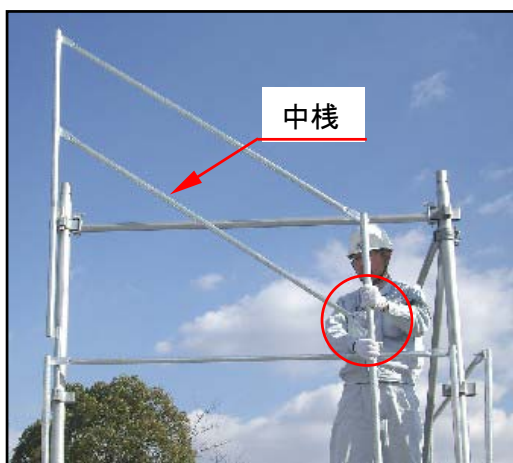
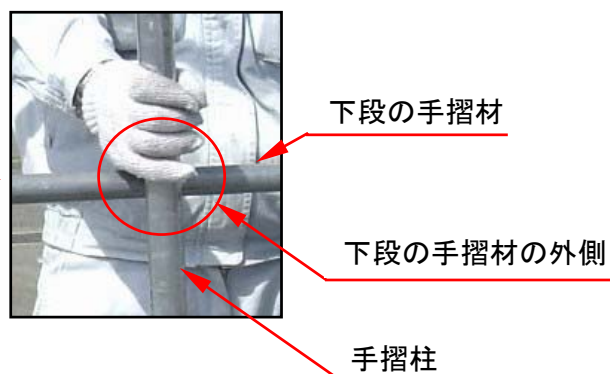
手摺柱落下防止のため、手摺柱下端を床付き布枠上に載せ、セットすること。



② 手摺柱を一旦、下段の手摺材の外側に出す。

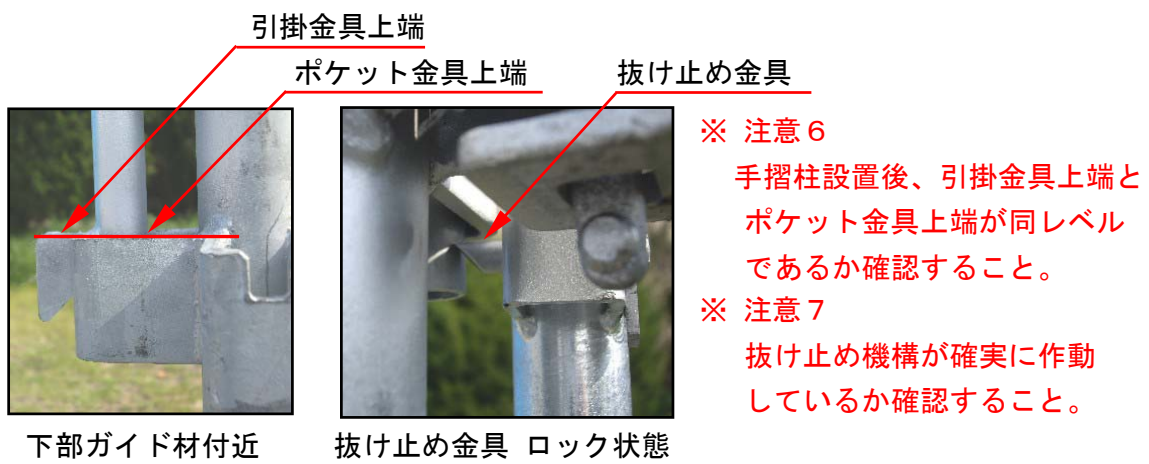
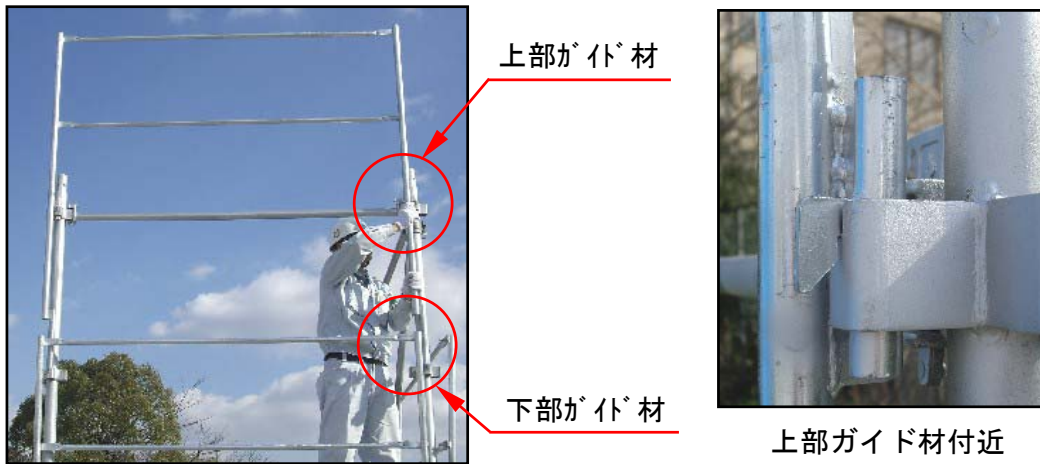


③ 手摺柱を持った状態で中棧をセットする。



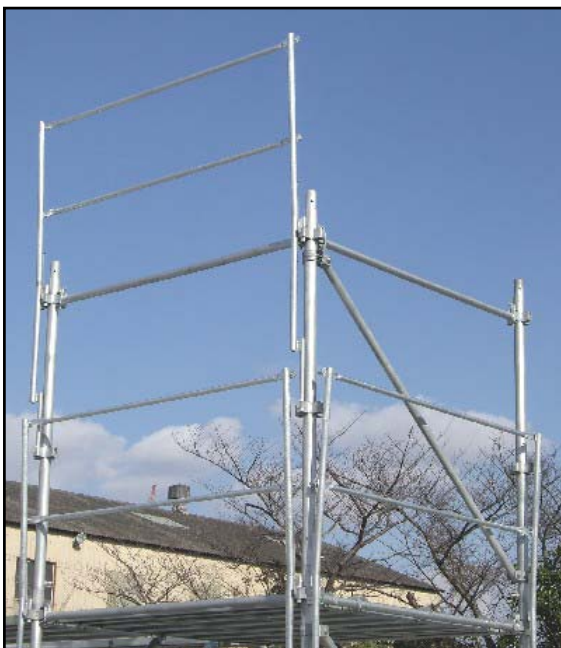
5. 手摺柱（2本目）の設置

- ・手摺柱を1本目の手摺柱（組立手順2）と同様設置。1スパン目の組立が完了。



6. 2スパン目以降の設置

- ・組立手順3～5を繰り返すことにより、連続スパンの設置が可能。



IV. 解体手順

1. 手摺柱の解体

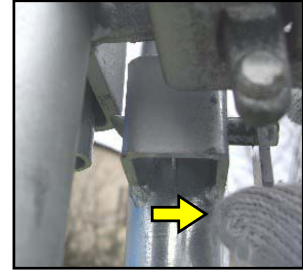
- ① 手摺柱の抜け止め金具を解除する。



抜け止め金具



ロック状態



解除状態

- ② 抜け止め金具を解除した状態で手摺柱を上方へ持ち上げる。



- ③ 下段の手摺材の外側へ、手摺柱をおろす。



継ぎ材

継ぎ材の外側

下段の手摺材の外側

下段の手摺材

※ 注意 8
下層の安全（人がいないか）
を確認して行うこと。

2. 手摺柱から中棧の取り外し

- ・ 手摺柱を片手で持った状態で中棧を取り外す。



3. 手摺柱から手摺材の取り外し

- ・ 手摺柱を一旦、床付き布枠上に置き、手摺材を取り外す。



継ぎ材の外側

下段の手摺材の内側

※ 注意 9

手摺柱落下防止のため、手摺柱下端を床付き布枠上に載せ、取り外すこと。

手摺柱下端

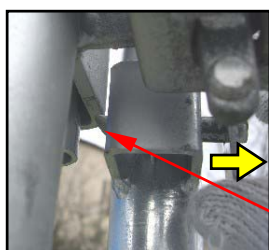


※ 注意 10

床付き布枠上に手摺柱を仮置きする場合、落下防止の措置を施すこと。

4. 手摺柱（2本目以降）の解体および、前スパンの中棧・手摺材の取り外し

- ① 手摺柱の抜け止め金具を解除する。



抜け止め金具

- ② 抜け止め金具を解除した状態で手摺柱を上方へ持ち上げる。 ③ 下段の手摺材の外側へ、手摺柱をおろす。



下段の手摺材

下段の手摺材の外側

前スパンの手摺材・中棧

手摺柱

- ③ 手摺柱にセットされている、前スパンの中棧・手摺材を取り外し、1スパン目が完了。



仮置きされた部材

手摺柱

※ 注意 1 1

中棧および、手摺材を落下させないように、しっかりと持ち操作すること。

※ 注意 1 2

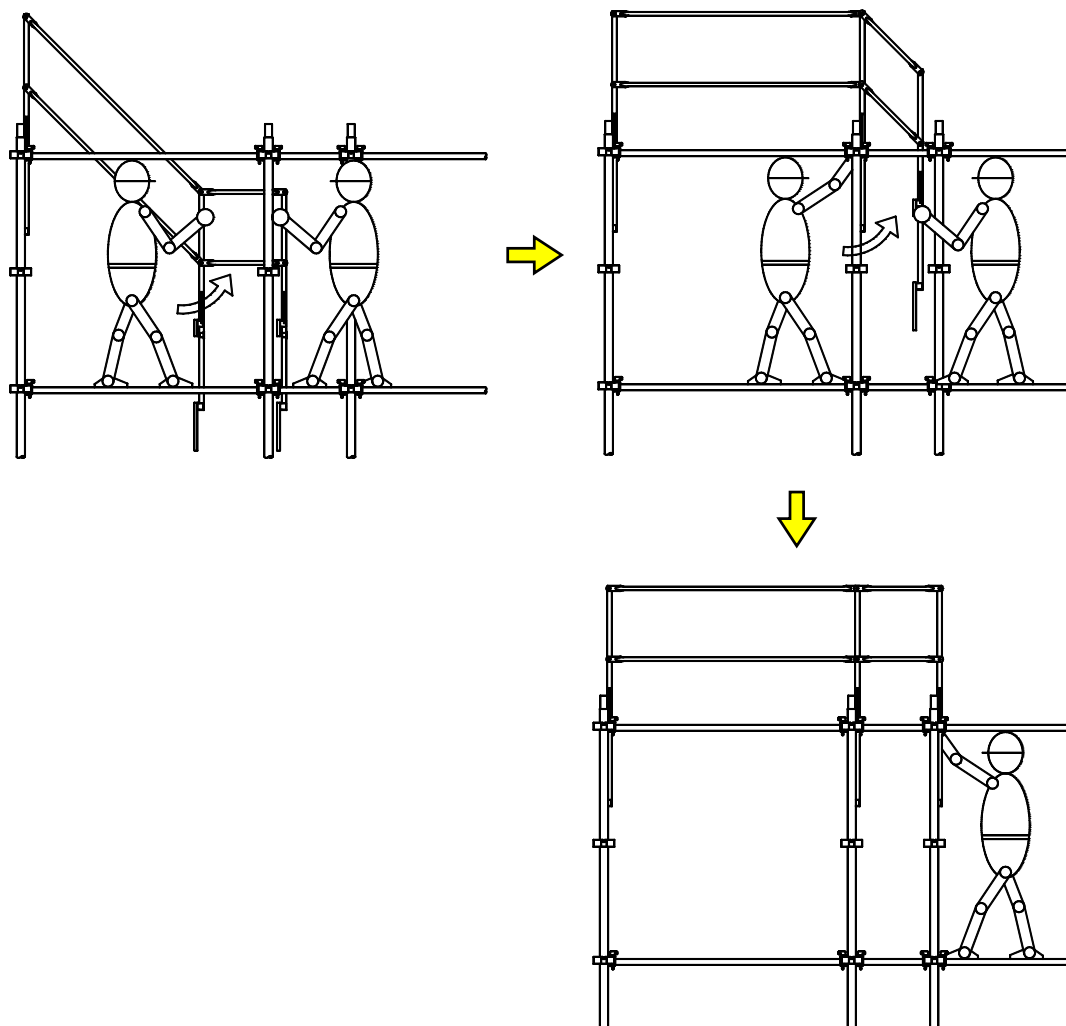
床付き布枠上に中棧・手摺材を仮置きする場合、落下防止の措置を施すこと。

5. 2スパン目以降の解体

- ・ 解体手順 2～4 を繰り返すことにより、連続スパンの取り外し可能。

V. スパン長 600 (610) mm の場合の組立・解体手順

- ・ スパン長が 600 (610) mm の場合、下図のように 2人作業で隣接スパンと同時に組み立て、1スパンずつ設置すること（解体は逆手順）。



以 上